

株式会社十和おかみさん市（高知県四万十町）

-地域の「台所」運営による買い物支援、なりわい創出等での地域福祉の増進-

一般財団法人国土計画協会顧問・客員研究員 太田 秀也

1. 株式会社十和おかみさん市の活動

株式会社十和おかみさん市（以下「(株)おかみさん市」という）は、高知県四万十町（人口14,762人（2025年3月31日現在））の十和地区において活動する任意団体である。

四万十町は、2006年3月20日に町の東部の窪川町、中部の大正町、西部の十和村の2町1村が合併して誕生した町で、最後の清流といわれる四万十川など、山・川・海の自然豊かな町である。また、町の東西にJR土讃線・予土線が走り、2012年には、町（四万十町東IC・中央IC）まで高知自動車道が延伸されている。

(株)おかみさん市は、地元の野菜の直売、地域に伝わる加工技術を継承した総菜等の加工・販売、学校給食への食材提供等の活動を展開している。

その活動により、2009年度に地域づくり表彰・全国地域づくり推進協議会会長賞を受賞している（受賞時点では任意団体）。

以下、活動の概要を、会社から提供された資料等の情報をベースに紹介する。

(1) 活動開始のきっかけ、活動の経緯

一活動開始から25年目、株式会社設立から15年目一

旧十和村では、1970年代に集落単位で漬物や味噌等の農産加工品を生産し、直売所で販売する女性グループの活動があったが、旧村全域で連携して活動を行うため、それらの生産グループ・加工グループで構成する「ふるさと産品協議会」が1997年に設立され、村内の農産品・加工品（栗ようかん、椎茸佃煮等）を詰め合わせた「十和ふるさと便」（ゆうパック）等の商品が生まれた。その後、2001年には、「ふるさと産品協議会」のメンバーや行政、JA、(株)四万十ドラマ等を構成員とする「十和村地産地消（産直活動）運営協議

会」が発足し、2003年より「おかみさん市」に名称を変え、任意団体として、地元の直売施設での販売（「十和の台所」）、高知市内のスーパーでの産直販売（「おでかけ台所」）、学校給食への地元食材の提供という活動を行ってきた。

2002年からは、「おかみさん市」独自の「正直エコ農産物表示」（販売する全ての野菜に生産者名、化学合成農薬の使用回数、化学合成肥料使用の有無等を表示）を始めるとともに、生産に携わる全会員が、ISO14001の認証を取得した。また「おでかけ台所」の活動を通じ、都市部の消費者との交流が生まれ、2004年に都市部との交流事業を開始した（2005年から「おもてなしツアー」として継続した）。更に2007年にオープンした道の駅「四万十とおわ」にあるレストラン「とおわ食堂」の定休日の毎週水曜日に、地元食材でつくった郷土料理をバイキング形式で提供する「十和おかみさん市おもてなしバイキング」を開始した。

2011年には、1株5,000円（1人10口まで）で、130名の株主を集め、株式会社十和おかみさん市を設立した。

(2) 現在の活動内容

一「台所」運営による地域福祉の増進一

「おでかけ台所」、「おもてなしツアー」、「十和おかみさん市おもてなしバイキング」の活動は休止しており（事情は下記2参照。なおバイキングは道の駅のスタッフにより継続されている）、現在の活動としては、直売施設（「おかみさん市」）での地元の野菜や加工した総菜等の販売、高齢者等への配食、学校給食への食材提供を行っている。「おかみさん市」は平日に営業（利用者の少ない土日は休業）している。

2. インタビュー、現地調査

2025年6月4日に(株)おかみさん市の居長原信子代表取締役におかみさん市店舗((株)おかみさん市会社事務所も同所)においてインタビューを行うとともに、現地調査を行った。



(写真は筆者撮影)

(1) インタビュー

①活動について

活動の特徴などについてお教えください。

「おかみさん市」による地元食材の加工・販売により、地域の台所として、食を核とした地域の福祉の増進に寄与している点です。この地域では、コンビニはなく、一番近いコンビニでも車で40分程度離れています。そういう中で町のコンビニのような機能を担うことで、地域の方の買い物ニーズに応えています。また、高齢者等への配食も行っており、その際に見守りもあわせて行っています。さらに、地域の方が生産した農作物を出荷する場、弁当・総菜等の加工・販売の場となっており、高齢者の方を中心には社会活動や生きがいの提供の機能も有しています。最高齢の女性は83歳で頑張っておられます。

買い物支援という点では、日用品も販売しているのですか。

食材加工の際に出た廃油を製造会社にお願いして作った石鹼を販売したりしていますが、日用品は扱ってはいません。販売できればいいのですが、うちの会社で扱うのは流通等の点で限界があります。

道の駅との違いはどのような点ですか。

おかみさん市では、地域の方への日々の弁当・総菜等の提供をしています。道の駅は、地域外の方への地域の特産品等の販売がメインですし、協力体制にある(株)四十ドラマさんも地域商社として商品開発した栗や芋の菓子を流通させている点で違いがあると思います。

おかみさん市の利用者は、地域の方が仕事の行き帰りに利用されたり、お昼ご飯のために買

いに来られたり様々ですが、地域のコミュニティバスで店まで来られて、お店で世間話をされて、帰りのバスの便で戻られる方もいます。

農作物の搬入も免許返納などで車で来られない方がコミュニティバスで持ってこられる方もいらっしゃいます。

②おかみさん市に運営について

おかみさん市は、どのような形で運営されているのですか。

各3~4名からなる7つのグループがあり、日替わりの交代で店舗内の加工業所で弁当・総菜等を作り、店舗で販売しています。

各グループはいわば独立採算制で、材料を持ち込み、加工し、売上を得、(株)おかみさん市が売上の20%をいただく形になっています。

なお経理事務だけは地元の組織(いなかビジネス支援組織である(一社)いなかパイプ)からの人材派遣をお願いしています。

グループの会員の方にはわずかですが月数万円の収入になり、喜ばれています。なお私の役員報酬もその程度です。

(株)おかみさん市の売上はどの程度ありますか。また収支等、経営はどのような状況ですか。

昨年で約2200万円の売上がありました。店舗運営では若干の赤字ですが、隣接する町のトイレの清掃維持の受託等の収入で、全体では収支トントンといった状況です。

③活動のなかで生じた課題、課題への対応

活動のなかで生じた課題があればお教え下さい。

高知市内のスーパーに出向いて直売活動する「おでかけ台所」の活動には、2006年の合併までは旧十和村の支援(車リース・運転手用意)を受け運営し盛況でしたが、合併後は四十町からの支援を受けられなくなり、「おでかけ台所」を休止せざるを得ませんでした。また会員の高齢化による担い手不足等により、「おもてなしツアーや「十和おかみさん市おもてなしバーキング」も休止しています。

このような町村合併の影響、会員の高齢化等に対応して、活動を再活性化するため、組織を株式会社化し、会員の方に、株主としての責任も持つて自分たち自身で組織を運営していくことを目指したところです。

現在の課題としては、加工グループや農家の

方がインボイスの発行をできないため、(株)おかみさん市の消費税仕入れ控除の関係で消費税納税額が増えることが課題としてあります。

④活動が継続している要因

十和村地産地消（産直活動）運営協議会の結成から25年目、(株)おかみさん市設立から15年目になりますが、活動が長く継続している要因はどのようなことが考えられますか。

地域のニーズがあり、活動を行っている皆さんのが活動を続けたい、頑張っていきたいという思いがあるからだと思います。

また女性中心で、役割分担・協調しながら、和気あいあいと仲良く活動できていることが大きいと思います。

高知県では地域運営組織への支援として「集落活動センター」の取組がありますが、そのような支援は受けられないのですか。

集落活動センターについては、立ち上げ時や立ち上げ当初の支援がありますが、主な支援は3年間に限られ、長く緩やかな支援が得られないで、活動を継続するためには、自らの事業で収入を得て、活動を継続できるようにする形を作ることが重要と思います。

活動の継続にためには、後継者の育成が重要だと思いますが、その点はどうなっていますか。

私は現在78歳で、次のもう一期・2年間代表取締役をやることとしていますが、その後は、50歳前の現取締役が次の代表取締役を担ってくれることが決まっています。

⑤取組の効果（地域への効果など）

取組の効果はどのようなものがありますか。

十和地域全域にわたる取組であり、十和の一体化に寄与していると思います。また、先ほど申しましたように、地域の方の買い物ニーズに応え、高齢者の方を中心に社会活動や生きがいの提供の機能を行い、少しですが収入も得ることで、地域の福祉の増進に寄与していると考えています。

⑥地域づくりを行う団体への取組のヒント等となるアドバイス

これまでの活動を踏まえ、地域づくりを行う団体への取組のヒント等となるアドバイスがあればお教えください。

行政の補助・支援をあてにしないで、自分た

ちの収入・力でやっていけるようにすることが重要だと思います。

(2) 現地調査

おかみさん市の店舗は、国道381号線に面し、裏は坂道をおりて行くとすぐ四万十川にでる場所にある（JR予土線の十川駅の約400m東）。元建設会社の事務所を改装したもので、こじんまりした店舗である。加工品の加工作業所、会社の事務所もこの建物内にある（なお同じ建物に(株)四万十ドラマの事務所も入っている）。



店舗外観



裏の四万十川



加工作業の様子

加工作業所では、当日のグループの3名の方が総菜等を作つておられた。売場では、弁当、総菜、農産物等が販売されていた。田舎ずしは海苔巻・昆布巻・筍巻の盛り合わせでボリュームがある（昆布巻が地元ではよく食べられるということであった）。いも天もボリュームがありコスパがいいと感



店舗内の様子



いも天

じられた（いずれもおいしくいただいた）。

売場の横で居長原さんに朝9時からインタビューさせていただいていたが、ひっきりなしに利用者の方が来られ、「のぶちゃん」と声をかけられていた（居長原さんの気さくな人柄が伺えるとともに、居長原さんと会話がしたいようで、申し訳ない感じがした）。

3. まとめと若干のコメント

以下、（株）おかみさん市の取組のポイントと思われる点をまとめるとともに、若干のコメントをしたい。

（1）取組のポイント

本誌2024年1月号50項以下において、「地域づくり表彰の表彰事例の整理・分析」として、これまでの地域づくりの取組事例を整理・分析したが、その内容も踏まえ、協議会の取組をみると、以下のようなポイントが挙げられる。

①取組の位置づけ

地域の住民によって、地域の方の買い物ニーズに応え、高齢者の方を中心に社会活動や生きがい、（少ないながら収入を得る）なりわいの場となっており、「地域活動」（同誌54頁参照）と言え、活動のきっかけ・経緯は「地域資源の活用」、「新たな企画の提案」（同誌52頁参照）と位置付けることができる。

②取組の継続性・発展性

集落の活動をベースに、旧村全域で連携して活動を行うための組織を、行政等とも連携しながら立ち上げ、様々な事業展開を行い、更に町村合併、会員高齢化等の状況変化にも対応するために、株式会社化という組織選択を行い、活動を25年間継続している点で、継続性・発展性がある。

特に、一部の活動については、休止という選択を行いつつ、コアの事業である「おかみさん市」に経営資源を集中して、継続している形は、高齢化等による活動の担い手不足が今後進展する地域における地域づくりの参考となる事例といえる。

また、休止した活動（バイキング）を別の主体が引き継いで行われている点も、地域の連携の形として参考となる。

（2）若干のコメント

本取組は、買い物支援等の地域サービスを提供するとともに、社会活動や生きがい、なりわいの場を提供する取組として、注目される。

特に、食を核とし、地域の食材を加工する「台所」、地域の方に加工品を提供する「台所」として機能している点に特色がある。また女性を中心とした活動である点にも特色がある。

各グループの独立採算制で運営されている点も、組織運営・活動方法の仕方として参考となる。

加えて、町村合併、会員高齢化等の状況変化にも対応するために、株式会社化という組織選択を行い、事業の選択と集中を行って、活動を25年間継続している点でも貴重な取組である。

課題として考えられる点を敢えてあげるとすると、（株）おかみさん市の代表取締役の後継者は確保されているが、会員の高齢化等に対応した活動の担い手不足が懸念されるところであり、関係人口の構築等も含めて検討していくことが望ましいのではないかと考えられる。

市町村合併による周辺部の旧市町村の活力が低下している、かつてのような行政の支援が届きづらいという課題が、他の地域も含め多く指摘されている中で、市町村合併による地域への影響を踏まえた地域づくりへの行政のサポート等のあり方についての検討が必要と考えられるところであるが、（株）おかみさん市のように、行政の補助・支援に依存しない、自らの自主収入・財源・力で活動を継続できるようにする組織経営の確立も重要なと感じられる。

※本稿の内容は、筆者の見解であり、筆者の属する組織及び地域づくり表彰主催団体としての意見ではないことを申し添える。